

信州大学 情報系新学部の誘致について

「信州大学の構想内容」（現時点での報道による情報）

【設置の狙い】

- ・高度情報化社会に対応し、幅広い社会課題の解決に貢献する人材育成
- ・スマートデバイス開発や人工知能（A I）の応用につなげるため、ビックデータやディープラーニング（深層学習）を研究に駆使する「データサイエンティスト」らを育成

【学部構成】

- ・工学部を改組し、「（仮称）情報基盤学部」と「（仮称）先鋭工学部」を設置
- ・「（仮称）情報基盤学部」は現在の「電子情報システム工学科」の情報通信システム分野を軸に新設
- ・「（仮称）先鋭工学部」は「物質化学科」、「水環境・土木工学科」、「機械システム工学科」、「建築学科」の4学科などの各専攻分野で、情報・データ分析の教育・研究を行う

○県内の動き

- ・飯田市 10月上旬、市内への誘致活動を始めると発表

新学部 誘致により期待できる主な効果

社会課題の解決 圏域の経済・社会基盤の向上

- ・本市としては、スマートシティNAGANO構想を進めており、先端技術を活用し、社会課題の解決、新産業の創出など地域経済の発展を目指していることから、専門人材を確保し圏域全体の経済や社会基盤の向上に大きな強みとなる。

若者の流出抑制・人口増 圏域の活性化

- ・高校生の魅力的な進学先となるため、圏域の若者の流出抑制や県域外からの若者流入増加につながり、結果として人口増と圏域の活性化につながる。

社会インフラ整備の推進・強化

- ・デジタル技術が今後の社会インフラ整備等のカギとなるため、情報系新学部が長野圏域に設置されるということは非常に大きな強みとなる。

現時点での状況と今後の方向性について

現時点では新学部の規模など
詳細は不明



今後、信州大学が公表する
情報を注視

周辺市町村、経済団体、I T
系の団体などの皆様からの意見
聴取



要望書の提出について議会へ
説明



信州大学へ要望書提出

<参考> 信州大学との連携事業について

【令和2年度連携事業数：31】

（主な連携事業）

◇長野ものづくり支援センター設置・運営（商工労働課/工学部 H17～）

信州大学等の知識を活用し、産学官の連携、交流を通じて企業の新技術新製品の開発やベンチャー企業の育成等を積極的に推進する。インキュベーションマネージャー等を中心に、大学や信州TLO、研究機関との密接な連携のもと、企業の研究開発ニーズに応じた産学の連携を支援する。

◇子どもプログラミング教室（商工労働課/総合情報センター H28～）

信州大学情報センター、教育学部、長野高専等との連携により長期的な視点で将来のICT人材の育成を図る。

◇バイオマスタウン構想（環境保全温暖化対策課/工学部 H23～）

バイオマス産業都市を目指し、地域特性に応じたバイオマス資源の有効活用を図り、環境負荷の少ない事業を推進するとともに、新たな産業と雇用を創出し、中山間地域の活性化を図る。

◇ソルガムきび活用調査研究（環境保全温暖化対策課/工学部 H25～）

耕作放棄地において、ソルガムきびを栽培し、そのエネルギー化など、効率的な活用ルートの確立を目指す。